

令和8年2月20日  
北九州市保健福祉局  
北九州市総務市民局

報道機関 各位

「認知症支援・介護予防に関する意識調査」を行いました  
～令和7年度第10回市政モニターアンケート～

1 調査案件

第10回「認知症支援・介護予防に関する意識調査」  
(保健福祉局認知症支援・介護予防課)

2 公表資料

第10回「認知症支援・介護予防に関する意識調査」  
(保健福祉局認知症支援・介護予防課)  
⇒ 結果概要及び調査報告書(別添のとおり)

3 参考資料

「市政モニター制度」について(別添のとおり)

【問い合わせ先】

■ 調査案件の内容について

《第10回》「認知症支援・介護予防に関する意識調査」  
保健福祉局認知症支援・介護予防課  
093-582-2063 林、高橋

■ 市政モニター制度について

総務市民局広聴課  
093-582-2527 森部、南谷

市政モニターに関すること 総務市民局広聴課 担当:森部、南谷 TEL:093-582-2527	アンケート内容に関すること 保健福祉局認知症支援・介護予防課 担当:林、高橋 TEL:093-582-2063
--	--

令和8年2月20日

令和7年度 第10回市政モニターアンケート  
 「認知症支援・介護予防に関する意識調査」  
 結果概要

本市では、認知症支援・介護予防に関する取り組みをしています。  
 そこで、今後の取り組みの参考とするため、認知症支援・介護予防についてのアンケート調査を実施しました。

I 調査概要

調査対象者 市政モニター102人(うち、回答者86人 回収率84.3%)  
 調査実施日 令和7年12月1日～令和7年12月12日  
 実施方法 インターネット調査

II 調査結果概要

(1)北九州市の高齢化について

政令指定都市の中で、北九州市が最も高齢化率が高いことを「知っている」は81.4%で、前回の令和6年度(85.1%)とほぼ同程度の認知度となっています。

(2)認知症について

軽度認知障害(MCI)は、『認知症と健常な状態の「中間のような状態」のこと。』という補足を入れたうえで、軽度認知障害(MCI)について尋ねたところ、「内容も言葉も知っている」が22.1%、「内容は知らないが、言葉は知っている」が38.4%で、軽度認知障害(MCI)という言葉を知っている方が6割に達しており、日常生活の中で見聞きする機会が多いことが分かりました。

市が行っている認知症事業の認知度は「認知症サポーター養成講座」、「認知症カフェ」が同率で25.6%、次いで「高齢者見守りサポーター派遣事業」が18.6%となっています。「認知症カフェ」を知っている方で、実際に「利用したことがある」方は9.1%と1割に満たない状況です。

また、市が行っている交流会の認知度は、「認知症・若年性認知症介護家族交流会」が20.9%、「認知症ご本人交流会」が11.6%となっており、いずれの交流会も認知度が低い状況です。

市が行っている認知症高齢者の安全確保事業の認知度は、「認知症行方不明者等SOSネットワークシステム」が16.3%で最も多く、次いで「北九州市見守りシール交付事業」(14.0%)、「認知症高齢者等位置探索サービス事業」(10.5%)となっており、前回の令和6年度と比べても大きな違いはありません。

認知症に関する相談窓口の認知度は、「かかりつけ医」(68.6%)、「ものわすれ外来」(67.4%)が僅差で並び、前回の令和6年度よりも「かかりつけ医」(前回55.4%)の認知度が高くなっていることが分かります。

「どこに相談してよいかわからない」は全体で16.3%ですが、そのうち男性は23.7%であり、男性への更なる周知啓発の取り組みが必要と考えられます。

高齢者の増加とともに、認知症高齢者も増えてくることが想定されるなかで、認知症の方が住み慣れた地域で安心して生活していくためには、家族だけではなく、地域全体で認知症の方を見守り、支えていく体制を構築していくことが重要であり、事業の周知啓発に、今後より一層取り組む必要があると考えられます。

### (3)健康づくりや介護予防(フレイル予防)について

フレイルとは、『加齢に伴い体力や社会性が低下しているが、適切な対応で元に戻ることが可能な状態』という補足を入れたうえで、フレイルという内容も言葉も理解している方は30.2%で、「内容は知らないが、言葉は知っている」が26.7%、「内容も言葉も知らない」が43.0%となりました。前回の令和6年度と比較すると、「内容は知らないが、言葉は知っている」(前回20.3%)が増えており、日常生活の中でフレイルという言葉を見聞きする機会が増えていることが分かります。

健康づくりや介護予防(フレイル予防)に関する情報入手先は、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が52.3%で最も多く、次いで「インターネット(Web記事やSNSなど)」が41.9%となっています。年齢別にみると、「インターネット(Web記事やSNSなど)」は若い年代よりも50歳代、60歳代の方で、情報入手経路としての優位度が高くなっていることから、今後は、若い年代にも関心を持ってもらうようなインターネット(Web記事やSNSなど)等による周知方法を検討することが必要と考えられます。

なお、具体的な取り組み内容では、「定期的に健康診断を受けている」(77.1%)が、前回同様最も多く、「口や歯の手入れをこまめに行っている」(68.6%)、「栄養バランスのとれた食事をとっている」(62.9%)が、ともに6割を超えています。「友人や知人と一緒にウォーキングやスポーツをしている」(31.4%)と答えた方が、前回の令和6年度(3.1%)から大きく増加しています。

また、「特に取り組んでいない」理由では、「どのようなことに取り組んだらよいか分からない」が47.1%と最も多く、次いで「興味・関心がない」が25.5%となっています。前回の令和6年度と比較すると、最も多かった「時間的な余裕がない」(前回47.6%)は21.6%に減少し、「どのようなことに取り組んだらよいか分からない」が増加した結果となりました。健康づくりや介護予防(フレイル予防)に役立つ運動の方法など、具体的な情報をより多く発信し、興味や関心を持っていただくことが必要と考えられます。

市が行う健康づくり・介護予防(フレイル予防)事業では、「自分の健康状態や認知機能の状態をチェックする場や機会の充実」(66.3%)を望む声が最も多く、次いで「市民センターなど身近な地域で気軽に参加できる場や機会の充実」(50.0%)となっており、前回の令和6年度とほぼ同じ結果となっています。

引き続き、身近な場所で、自身の健康や認知機能をチェックできるような住民参加型のイベントが求められていることが伺われます。

令和7年度  
第10回市政モニターアンケート

「認知症支援・介護予防に関する意識調査」

総務市民局広聴課

## 目 次

I 調査の概要	1
II 市政モニターの構成	1
III 調査結果	2
【北九州市の高齢化について】	
(1) 北九州市の高齢化について	2
【認知症について】	
(2) 軽度認知障害(MCI)について	3
(3) 市が行っている認知症事業について	4
(4) 認知症高齢者等の安全確保事業について	9
(5) 認知症に関する相談窓口について	10
【健康づくりや介護予防(フレイル予防)について】	
(6) フレイルについて	12
(7) 健康づくりや介護予防(フレイル予防)に関する情報について	13
(8) 健康づくりや介護予防(フレイル予防)の取り組みについて	15
(9) 市が行う今後の健康づくり・介護予防(フレイル予防)事業について	20
(10) 認知症支援・介護予防に関する意見	22
IV 全体考察	24

## I 調査の概要

調査対象者	市政モニター102人		
回答者数	86人（回収率84.3%）		
調査実施日	令和7年12月1日～令和7年12月12日		
実施方法	インターネット調査		
調査実施課	総務市民局広聴課	TEL093-582-2527	
調査依頼課	保健福祉局認知症支援・介護予防課	TEL093-582-2063	

## II 市政モニターの構成

	合計	男性	女性		合計	男性	女性
全体	102 (100.0%)	44 (43.1%)	58 (56.9%)	区別			
10歳代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	門司区	13 (12.7%)	7 (6.9%)	6 (5.9%)
20歳代	6 (5.9%)	4 (3.9%)	2 (2.0%)	小倉北区	21 (20.6%)	11 (10.8%)	10 (9.8%)
30歳代	14 (13.7%)	4 (3.9%)	10 (9.8%)	小倉南区	21 (20.6%)	8 (7.8%)	13 (12.7%)
40歳代	22 (21.6%)	7 (6.9%)	15 (14.7%)	若松区	4 (3.9%)	1 (1.0%)	3 (2.9%)
50歳代	24 (23.5%)	5 (4.9%)	19 (18.6%)	八幡東区	13 (12.7%)	7 (6.9%)	6 (5.9%)
60歳代	26 (25.5%)	17 (16.7%)	9 (8.8%)	八幡西区	23 (22.5%)	8 (7.8%)	15 (14.7%)
70歳以上	10 (9.8%)	7 (6.9%)	3 (2.9%)	戸畑区	7 (6.9%)	2 (2.0%)	5 (4.9%)

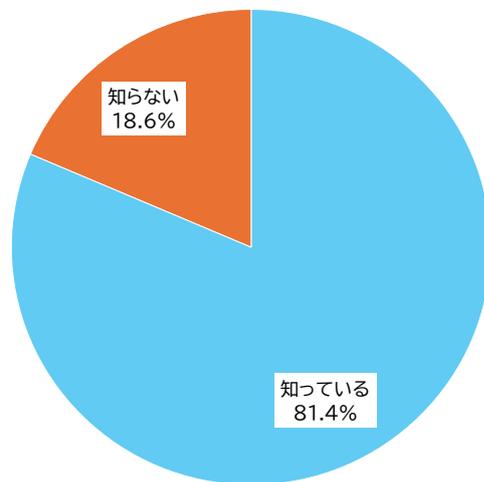
※ 数値の単位未満は四捨五入を原則としており、総数と内容の合計は一致しない場合があります。

※ 年代は令和7年4月1日時点でのものです。

### Ⅲ 調査結果

#### 北九州市の高齢化について

問1 本市は政令指定都市の中で最も高齢化率が高いということを知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない
全体		86人	81.4%	18.6%
性別	男性	38人	86.8%	13.2%
	女性	48人	77.1%	22.9%
年齢	20歳代	4人	100.0%	0.0%
	30歳代	13人	53.8%	46.2%
	40歳代	18人	88.9%	11.1%
	50歳代	20人	80.0%	20.0%
	60歳代	21人	85.7%	14.3%
	70歳以上	10人	90.0%	10.0%
区別	門司区	11人	90.9%	9.1%
	小倉北区	18人	72.2%	27.8%
	小倉南区	17人	88.2%	11.8%
	若松区	3人	100.0%	0.0%
	八幡東区	12人	83.3%	16.7%
	八幡西区	18人	88.9%	11.1%
	戸畑区	7人	42.9%	57.1%

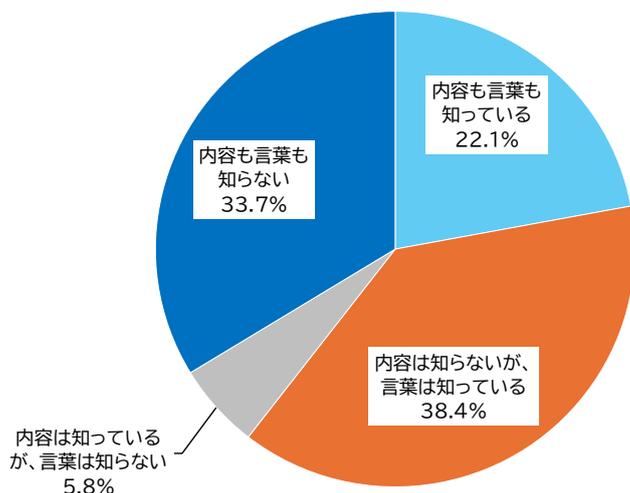
政令指定都市の中で、北九州市が最も高齢化率が高いことについて、「知っている」が81.4%、「知らない」が18.6%でした。

## 認知症について

### (軽度認知障害(MCI)について)

問2 あなたは軽度認知障害(MCI)※について知っていますか。

※軽度認知障害(MCI)とは…認知症と健常な状態の「中間のような状態」のこと。

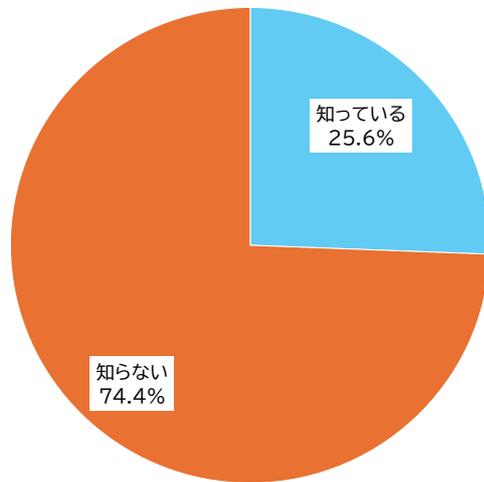


		回答者数	内容も言葉も知っている	内容は知らないが、言葉は知っている	内容は知っているが、言葉は知らない	内容も言葉も知らない
全体		86人	22.1%	38.4%	5.8%	33.7%
性別	男性	38人	13.2%	36.8%	7.9%	42.1%
	女性	48人	29.2%	39.6%	4.2%	27.1%
	20歳代	4人	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%
	30歳代	13人	30.8%	38.5%	0.0%	30.8%
	40歳代	18人	38.9%	16.7%	5.6%	38.9%
	50歳代	20人	10.0%	50.0%	5.0%	35.0%
	60歳代	21人	23.8%	38.1%	9.5%	28.6%
	70歳以上	10人	0.0%	70.0%	0.0%	30.0%
区別	門司区	11人	9.1%	63.6%	9.1%	18.2%
	小倉北区	18人	11.1%	27.8%	5.6%	55.6%
	小倉南区	17人	17.6%	41.2%	5.9%	35.3%
	若松区	3人	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%
	八幡東区	12人	25.0%	41.7%	8.3%	25.0%
	八幡西区	18人	38.9%	33.3%	0.0%	27.8%
	戸畑区	7人	14.3%	42.9%	14.3%	28.6%

「軽度認知障害(MCI)」について「内容も言葉も知っている」が22.1%、「内容は知らないが、言葉は知っている」が38.4%、「内容は知っているが、言葉は知らない」が5.8%、「内容も言葉も知らない」が33.7%でした。

### (市が行っている認知症事業について)

問3 あなたは認知症サポーター養成講座を知っていますか。

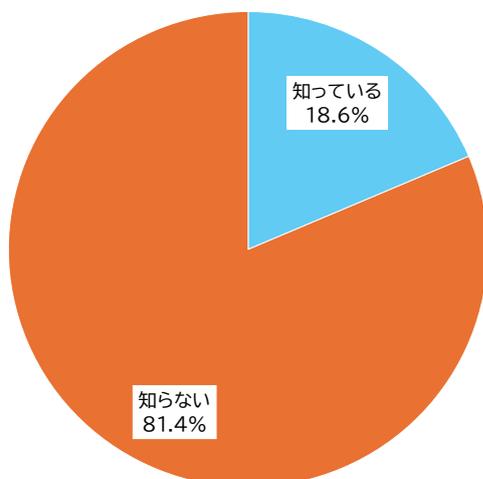


		回答者数	知っている	知らない
全体		86人	25.6%	74.4%
性別	男性	38人	18.4%	81.6%
	女性	48人	31.3%	68.8%
	20歳代	4人	0.0%	100.0%
	30歳代	13人	15.4%	84.6%
	40歳代	18人	38.9%	61.1%
	50歳代	20人	20.0%	80.0%
	60歳代	21人	38.1%	61.9%
	70歳以上	10人	10.0%	90.0%
区別	門司区	11人	27.3%	72.7%
	小倉北区	18人	11.1%	88.9%
	小倉南区	17人	23.5%	76.5%
	若松区	3人	66.7%	33.3%
	八幡東区	12人	41.7%	58.3%
	八幡西区	18人	27.8%	72.2%
	戸畑区	7人	14.3%	85.7%

「認知症サポーター養成講座」について、「知っている」が25.6%、「知らない」が74.4%でした。

性別で見ると、知っている方は男性18.4%、女性31.3%で、女性が高いことが分かります。

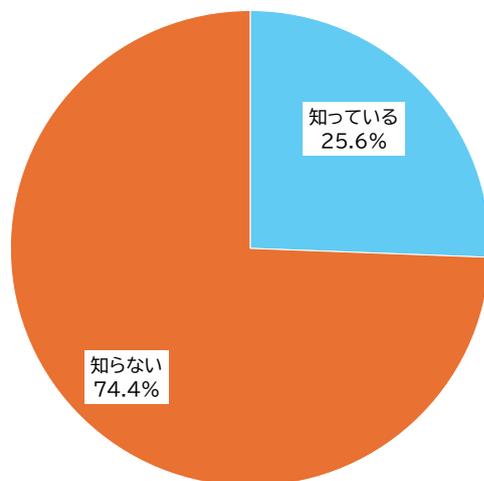
問4 高齢者見守りサポーター派遣事業を知っていますか。



		回答者数	知っている	知らない
全体		86人	18.6%	81.4%
性別	男性	38人	13.2%	86.8%
	女性	48人	22.9%	77.1%
	20歳代	4人	0.0%	100.0%
	30歳代	13人	23.1%	76.9%
	40歳代	18人	11.1%	88.9%
	50歳代	20人	20.0%	80.0%
	60歳代	21人	33.3%	66.7%
	70歳以上	10人	0.0%	100.0%
区別	門司区	11人	9.1%	90.9%
	小倉北区	18人	5.6%	94.4%
	小倉南区	17人	17.6%	82.4%
	若松区	3人	33.3%	66.7%
	八幡東区	12人	33.3%	66.7%
	八幡西区	18人	22.2%	77.8%
	戸畑区	7人	28.6%	71.4%

「高齢者見守りサポーター派遣事業」について、「知っている」が18.6%、「知らない」が81.4%でした。年代別にみると、60歳代の認知度が最も高いことが分かります。

問5 認知症カフェを知っていますか。



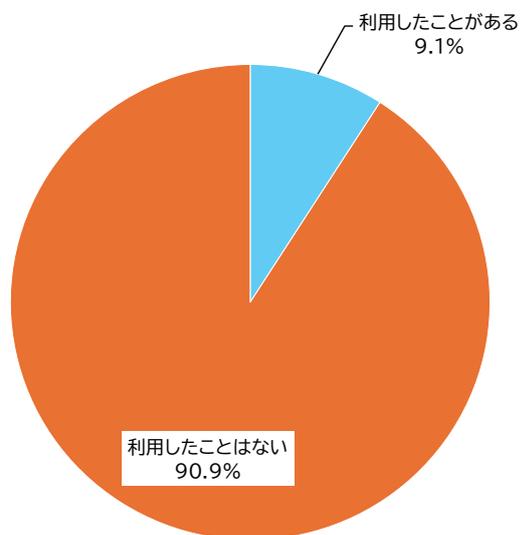
		回答者数	知っている	知らない
全体		86人	25.6%	74.4%
性別	男性	38人	10.5%	89.5%
	女性	48人	37.5%	62.5%
	20歳代	4人	25.0%	75.0%
	30歳代	13人	15.4%	84.6%
	40歳代	18人	33.3%	66.7%
	50歳代	20人	35.0%	65.0%
	60歳代	21人	28.6%	71.4%
	70歳以上	10人	0.0%	100.0%
区別	門司区	11人	9.1%	90.9%
	小倉北区	18人	11.1%	88.9%
	小倉南区	17人	23.5%	76.5%
	若松区	3人	33.3%	66.7%
	八幡東区	12人	50.0%	50.0%
	八幡西区	18人	33.3%	66.7%
	戸畑区	7人	28.6%	71.4%

「認知症カフェ」について、「知っている」が25.6%、「知らない」が74.4%でした。

性別で見ると、知っている方は男性10.5%、女性37.5%で、女性が高いことが分かります。

<問5で「知っている」と回答された方にお尋ねします。>

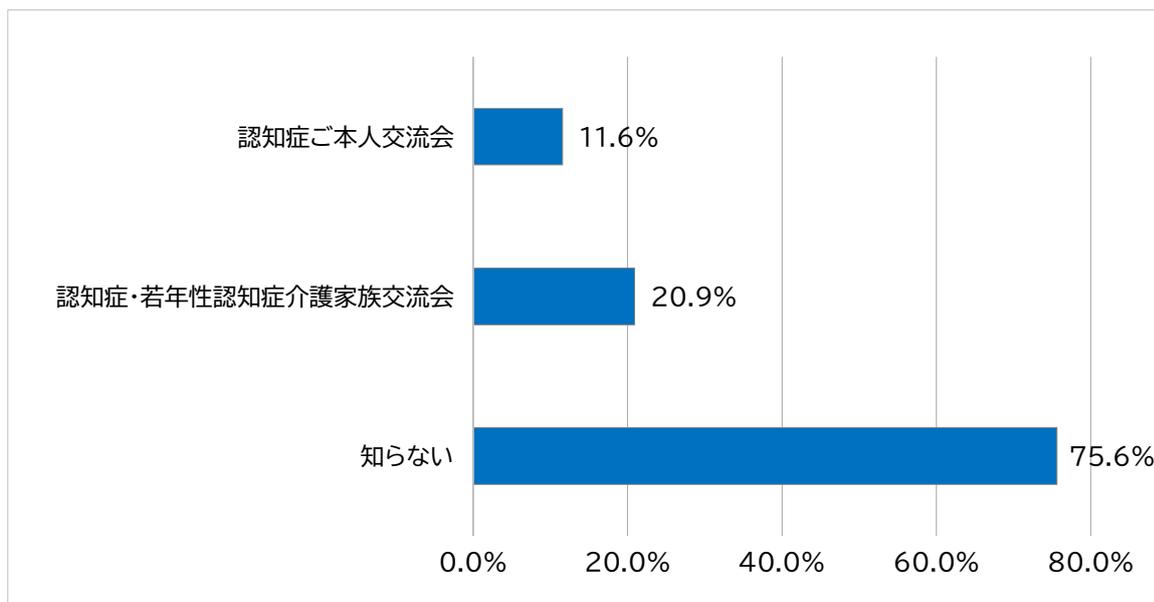
問6 認知症カフェを利用したことがありますか。



		回答者数	利用したことがある	利用したことはない
全体		22人	9.1%	90.9%
性別	男性	4人	0.0%	100.0%
	女性	18人	11.1%	88.9%
	20歳代	1人	0.0%	100.0%
	30歳代	2人	0.0%	100.0%
	40歳代	6人	0.0%	100.0%
	50歳代	7人	28.6%	71.4%
	60歳代	6人	0.0%	100.0%
	70歳以上	0人	0.0%	0.0%
区別	門司区	1人	0.0%	100.0%
	小倉北区	2人	50.0%	50.0%
	小倉南区	4人	0.0%	100.0%
	若松区	1人	0.0%	100.0%
	八幡東区	6人	0.0%	100.0%
	八幡西区	6人	0.0%	100.0%
	戸畑区	2人	50.0%	50.0%

「認知症カフェ」を知っている方で、実際に「利用したことがある」は9.1%、「利用したことはない」が90.9%でした。

問7 あなたが知っている交流会をすべて選択してください。(複数選択可)



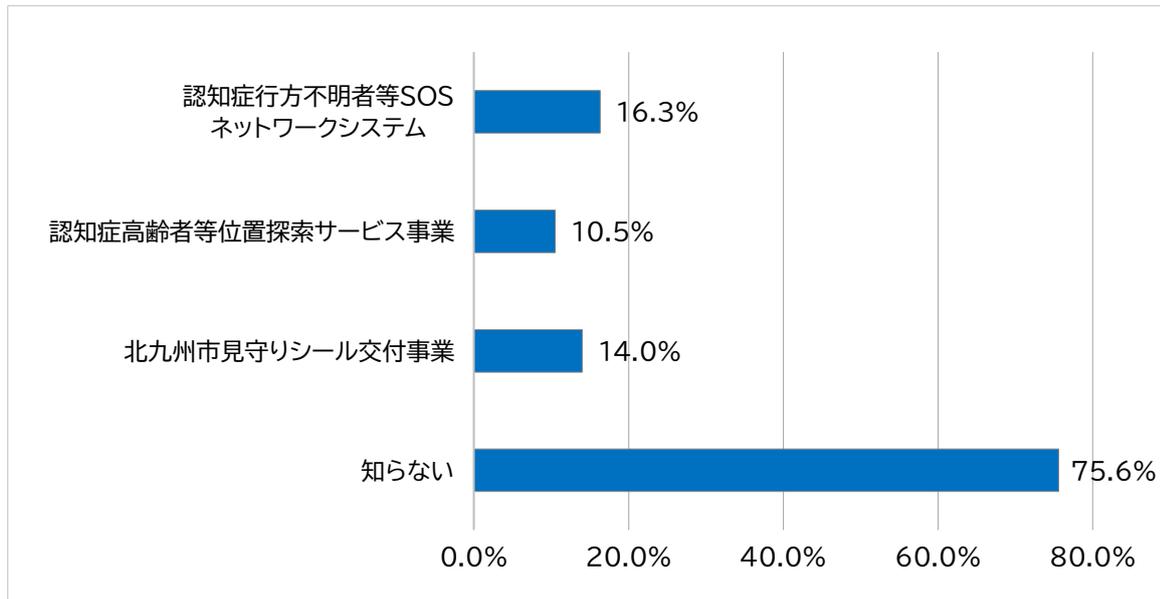
		回答者数	認知症ご本人交流会	認知症・若年性認知症介護家族交流会	知らない
全体		86人	11.6%	20.9%	75.6%
性別	男性	38人	2.6%	5.3%	94.7%
	女性	48人	18.8%	33.3%	60.4%
	20歳代	4人	0.0%	0.0%	100.0%
	30歳代	13人	7.7%	15.4%	76.9%
	40歳代	18人	22.2%	33.3%	61.1%
	50歳代	20人	15.0%	25.0%	70.0%
	60歳代	21人	9.5%	14.3%	85.7%
	70歳以上	10人	0.0%	20.0%	80.0%
区別	門司区	11人	9.1%	18.2%	81.8%
	小倉北区	18人	5.6%	5.6%	94.4%
	小倉南区	17人	11.8%	23.5%	70.6%
	若松区	3人	33.3%	33.3%	66.7%
	八幡東区	12人	16.7%	25.0%	75.0%
	八幡西区	18人	11.1%	33.3%	61.1%
	戸畑区	7人	14.3%	14.3%	71.4%

市が行っている交流会の認知度について、「認知症ご本人交流会」が11.6%、「認知症・若年性認知症介護家族交流会」が20.9%、「知らない」が75.6%で、いずれの交流会も認知度が低いという結果となりました。

性別にみると、「知らない」と答えた方は、女性が60.4%、男性が94.7%で、男性の方が交流会を知らない結果となっています。

(認知症高齢者等の安全確保事業について)

問8 認知症高齢者等の安全確保に関する事業として、あなたが知っているものすべてを選択してください。(複数選択可)

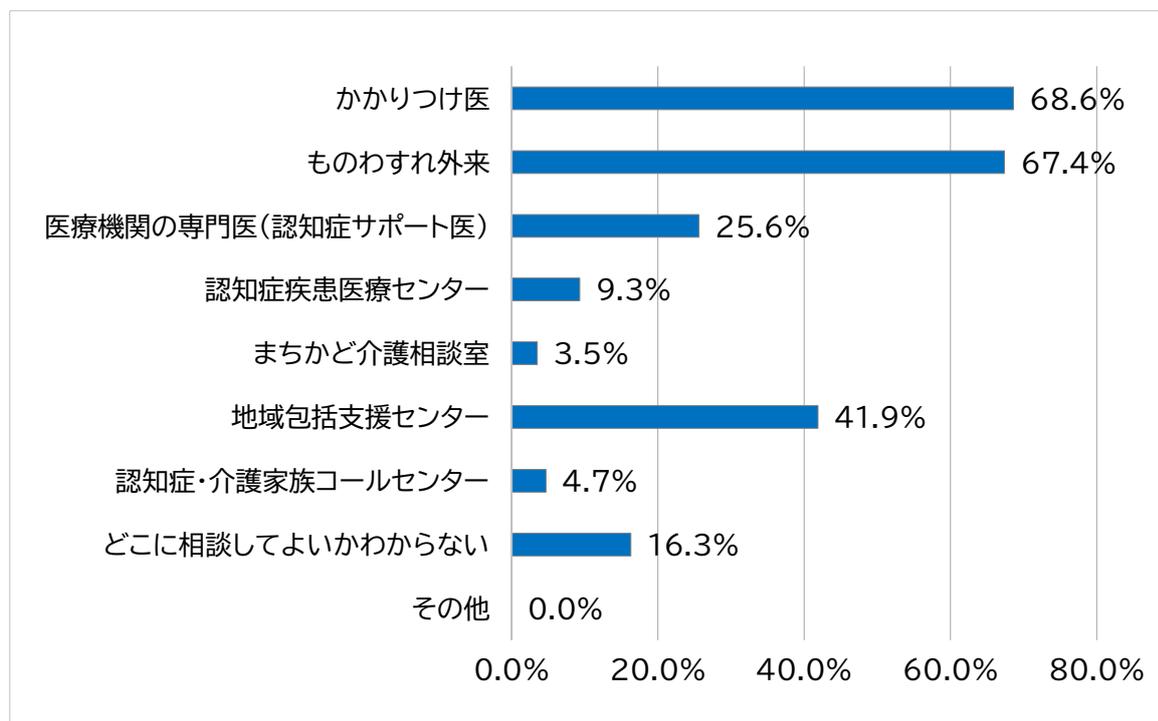


		回答者数	認知症行方不明者等SOSネットワークシステム	認知症高齢者等位置探索サービス事業	北九州市見守りシール交付事業	知らない
全体		86人	16.3%	10.5%	14.0%	75.6%
性別	男性	38人	7.9%	2.6%	10.5%	84.2%
	女性	48人	22.9%	16.7%	16.7%	68.8%
	20歳代	4人	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%
	30歳代	13人	15.4%	15.4%	15.4%	76.9%
	40歳代	18人	5.6%	5.6%	5.6%	83.3%
	50歳代	20人	30.0%	10.0%	15.0%	65.0%
	60歳代	21人	19.0%	14.3%	23.8%	71.4%
	70歳以上	10人	10.0%	10.0%	0.0%	90.0%
区別	門司区	11人	9.1%	9.1%	9.1%	81.8%
	小倉北区	18人	5.6%	5.6%	11.1%	88.9%
	小倉南区	17人	5.9%	11.8%	11.8%	82.4%
	若松区	3人	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%
	八幡東区	12人	8.3%	0.0%	25.0%	75.0%
	八幡西区	18人	38.9%	22.2%	16.7%	55.6%
	戸畑区	7人	28.6%	0.0%	0.0%	71.4%

認知症高齢者等の安全確保に関する事業の認知度は、「認知症行方不明者等SOSネットワークシステム」が16.3%、「認知症高齢者等位置探索サービス事業」が10.5%、「北九州市見守りシール交付事業」が14.0%、「知らない」が75.6%で、いずれの事業も認知度が低いという結果となりました。

(認知症に関する相談窓口について)

問9 認知症に関する相談窓口として、あなたが知っているものを全て選択してください。(複数選択可)



		回答者数	かかりつけ医	ものわすれ外来	医療機関の専門医(認知症サポート医)	認知症疾患医療センター	まちかど介護相談室
全体		86人	68.6%	67.4%	25.6%	9.3%	3.5%
性別	男性	38人	60.5%	52.6%	21.1%	7.9%	0.0%
	女性	48人	75.0%	79.2%	29.2%	10.4%	6.3%
年齢	20歳代	4人	75.0%	75.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	13人	69.2%	53.8%	15.4%	7.7%	7.7%
	40歳代	18人	72.2%	83.3%	27.8%	11.1%	5.6%
	50歳代	20人	85.0%	55.0%	20.0%	10.0%	5.0%
	60歳代	21人	52.4%	71.4%	28.6%	9.5%	0.0%
	70歳以上	10人	60.0%	70.0%	30.0%	10.0%	0.0%
区別	門司区	11人	90.9%	100.0%	36.4%	9.1%	0.0%
	小倉北区	18人	66.7%	44.4%	27.8%	5.6%	5.6%
	小倉南区	17人	64.7%	52.9%	5.9%	11.8%	5.9%
	若松区	3人	66.7%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	58.3%	66.7%	33.3%	8.3%	8.3%
	八幡西区	18人	77.8%	88.9%	27.8%	11.1%	0.0%
	戸畑区	7人	42.9%	57.1%	14.3%	14.3%	0.0%

(次ページへ続く)

	回答者数	地域包括支援センター	認知症・介護家族コールセンター	どこに相談してよいかわからない	その他	
全体	86人	41.9%	4.7%	16.3%	0.0%	
性別	男性	38人	34.2%	5.3%	23.7%	0.0%
	女性	48人	47.9%	4.2%	10.4%	0.0%
	20歳代	4人	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	13人	46.2%	0.0%	30.8%	0.0%
	40歳代	18人	44.4%	5.6%	16.7%	0.0%
	50歳代	20人	55.0%	10.0%	5.0%	0.0%
	60歳代	21人	28.6%	4.8%	19.0%	0.0%
	70歳以上	10人	30.0%	0.0%	20.0%	0.0%
区別	門司区	11人	63.6%	0.0%	9.1%	0.0%
	小倉北区	18人	50.0%	5.6%	16.7%	0.0%
	小倉南区	17人	29.4%	0.0%	17.6%	0.0%
	若松区	3人	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	33.3%	16.7%	25.0%	0.0%
	八幡西区	18人	44.4%	5.6%	11.1%	0.0%
	戸畑区	7人	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%

認知症に関する相談窓口の認知度では、「かかりつけ医」が68.6%、「ものわすれ外来」が67.4%、次いで「地域包括支援センター」が41.9%となっています。

前回は「ものわすれ外来」が73.0%で最も多く、「かかりつけ医」は55.4%でしたが、今回は「かかりつけ医」が高くなっていることが分かります。

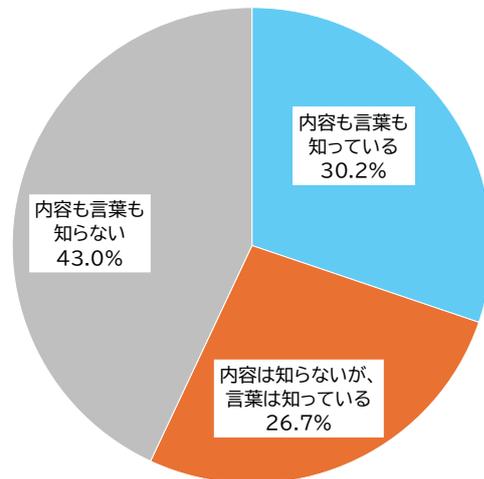
性別にみると、女性はいずれの相談窓口も男性より認知度が高く、特に「ものわすれ外来」は、女性のほぼ8割に認知されています。

「どこに相談してよいかわからない」は男性が23.7%、女性が10.4%となっており、相談先の見当がつかない方は男性に多いことが分かります。

## 健康づくりや介護予防(フレイル予防)について

(フレイルについて)

問10 フレイルについて知っていますか。



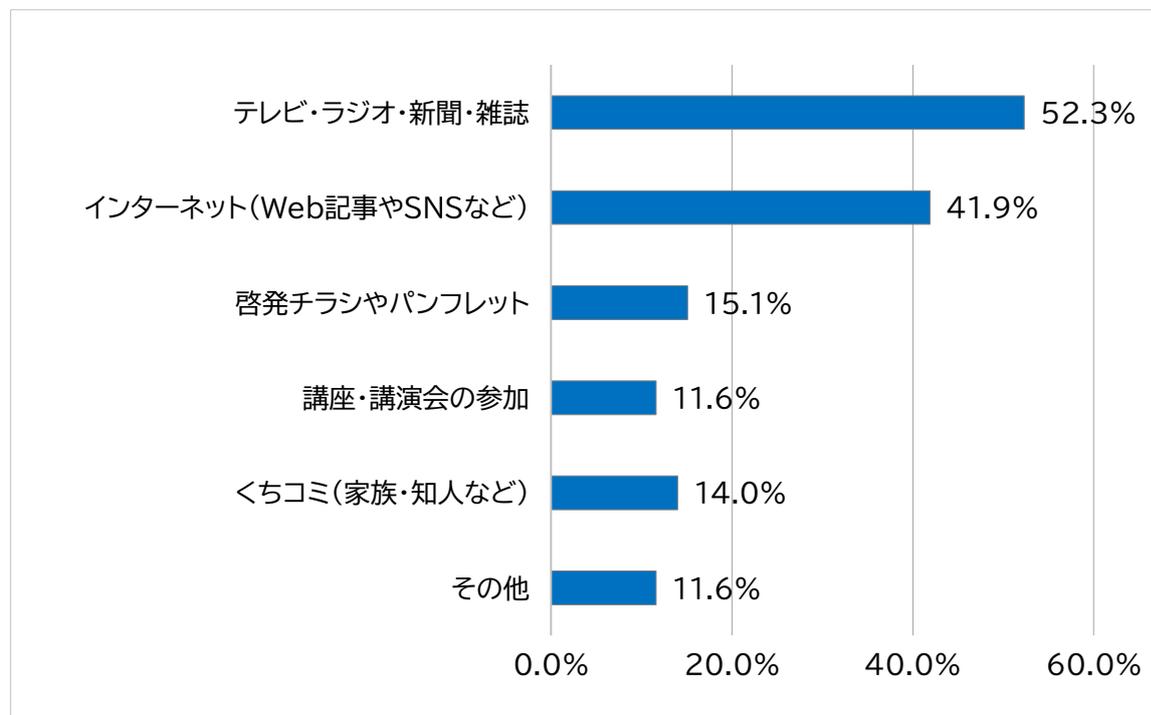
	回答者数	内容も言葉も知っている	内容は知らないが、言葉は知っている	内容も言葉も知らない	
全体	86人	30.2%	26.7%	43.0%	
性別	男性	38人	21.1%	28.9%	50.0%
	女性	48人	37.5%	25.0%	37.5%
	20歳代	4人	25.0%	0.0%	75.0%
	30歳代	13人	30.8%	30.8%	38.5%
	40歳代	18人	33.3%	16.7%	50.0%
	50歳代	20人	30.0%	25.0%	45.0%
	60歳代	21人	28.6%	28.6%	42.9%
	70歳以上	10人	30.0%	50.0%	20.0%
区別	門司区	11人	27.3%	27.3%	45.5%
	小倉北区	18人	11.1%	33.3%	55.6%
	小倉南区	17人	41.2%	17.6%	41.2%
	若松区	3人	66.7%	0.0%	33.3%
	八幡東区	12人	33.3%	33.3%	33.3%
	八幡西区	18人	33.3%	22.2%	44.4%
	戸畑区	7人	28.6%	42.9%	28.6%

フレイルについては、「内容も言葉も知っている」が30.2%、「内容は知らないが、言葉は知っている」が26.7%、「内容も言葉も知らない」が43.0%でした。

(健康づくりや介護予防(フレイル予防)に関する情報について)

問11 健康づくりや介護予防(フレイル予防)に関する情報を何から得ていますか。

(複数選択可)



		回答者数	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	インターネット(Web記事やSNSなど)	啓発チラシやパンフレット	講座・講演会の参加	くちコミ(家族・知人など)	その他
全体		86人	52.3%	41.9%	15.1%	11.6%	14.0%	11.6%
性別	男性	38人	50.0%	42.1%	15.8%	5.3%	13.2%	10.5%
	女性	48人	54.2%	41.7%	14.6%	16.7%	14.6%	12.5%
年齢	20歳代	4人	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%
	30歳代	13人	30.8%	38.5%	15.4%	0.0%	30.8%	23.1%
	40歳代	18人	66.7%	27.8%	5.6%	11.1%	11.1%	11.1%
	50歳代	20人	45.0%	55.0%	25.0%	15.0%	10.0%	10.0%
	60歳代	21人	61.9%	61.9%	14.3%	4.8%	14.3%	9.5%
	70歳以上	10人	60.0%	10.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%
区別	門司区	11人	63.6%	54.5%	18.2%	9.1%	9.1%	9.1%
	小倉北区	18人	50.0%	44.4%	11.1%	22.2%	16.7%	0.0%
	小倉南区	17人	41.2%	52.9%	23.5%	5.9%	17.6%	11.8%
	若松区	3人	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	八幡東区	12人	58.3%	25.0%	0.0%	8.3%	16.7%	25.0%
	八幡西区	18人	55.6%	44.4%	16.7%	5.6%	16.7%	11.1%
	戸畑区	7人	42.9%	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	28.6%

(次ページへ続く)

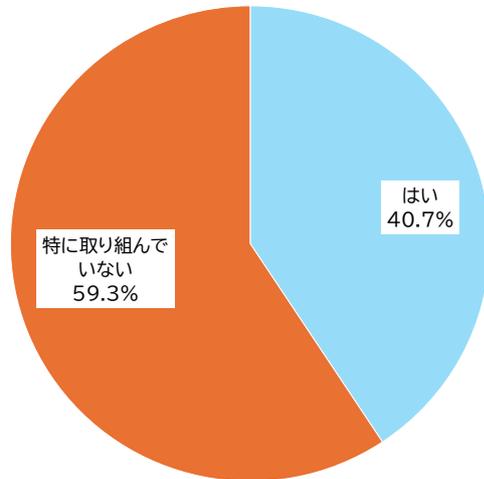
健康づくりや介護予防(フレイル予防)に関する情報を何から得ているかについては、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が52.3%で最も多く、次いで「インターネット(Web記事やSNSなど)」が41.9%、「啓発チラシやパンフレット」が15.1%という結果になりました。前回と比較すると、「啓発チラシやパンフレット」(前回29.7%)から情報を入手している方は減少しています。

年齢別にみると、50歳代、60歳代では「インターネット(Web記事やSNSなど)」から情報を入手している方が多いことが分かります。70歳以上では、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」の次に「講座・講演会の参加」が多くなっています。

※その他の内容では「大学の講義」、「フレイルを知らない」、「情報は得ていない」といった回答がありました。

(健康づくりや介護予防(フレイル予防)の取り組みについて)

問12 健康づくりや介護予防(フレイル予防)に取り組んでいますか。



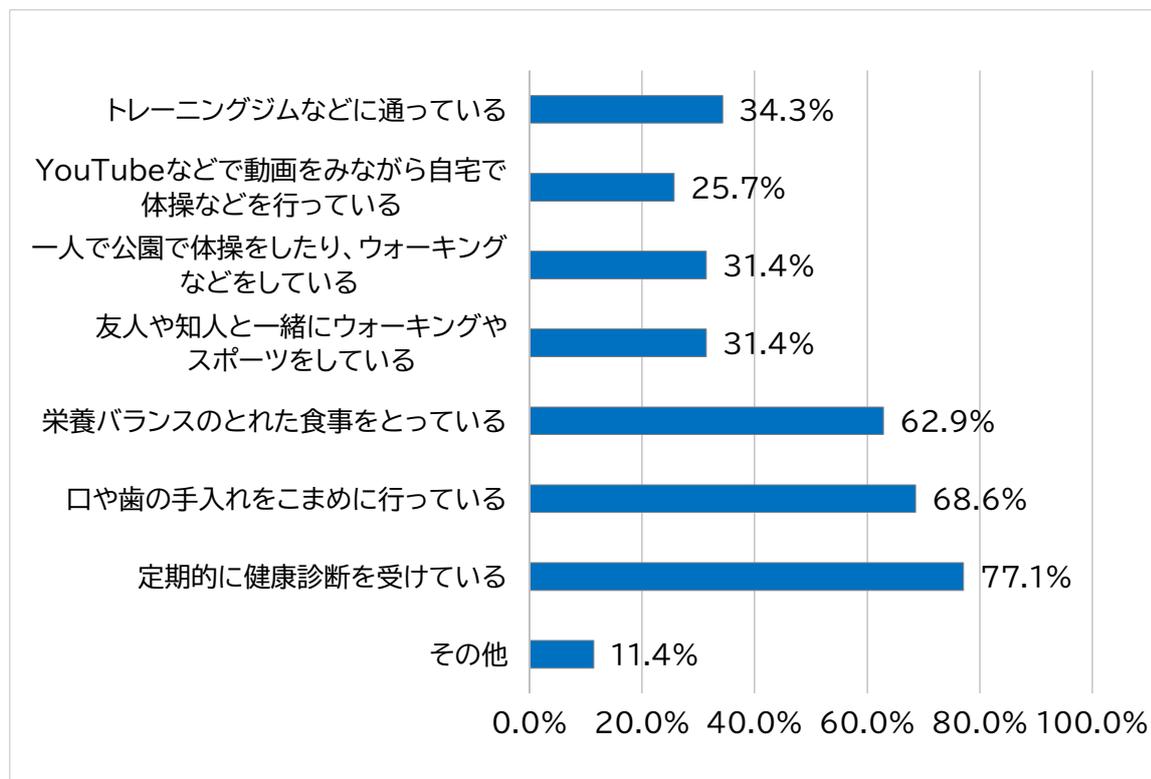
		回答者数	はい	特に取り組んでいない
全体		86人	40.7%	59.3%
性別	男性	38人	34.2%	65.8%
	女性	48人	45.8%	54.2%
年齢別	20歳代	4人	25.0%	75.0%
	30歳代	13人	38.5%	61.5%
	40歳代	18人	33.3%	66.7%
	50歳代	20人	45.0%	55.0%
	60歳代	21人	38.1%	61.9%
	70歳代	10人	60.0%	40.0%
	70歳以上	10人	60.0%	40.0%
区別	門司区	11人	54.5%	45.5%
	小倉北区	18人	55.6%	44.4%
	小倉南区	17人	41.2%	58.8%
	若松区	3人	66.7%	33.3%
	八幡東区	12人	16.7%	83.3%
	八幡西区	18人	27.8%	72.2%
	戸畑区	7人	42.9%	57.1%

健康づくりや介護予防(フレイル予防)に取り組んでいるかについては、「はい」が40.7%、「特に取り組んでいない」が59.3%でした。

年代別にみると、「はい」と答えた方は、70歳以上が60.0%で最も多いという結果となっています。

< 問12で「はい」と回答された方にお尋ねします。 >

問13 具体的にどのようなことに取り組んでいますか。(複数選択可)



		回答者数	トレーニングジムなどに通っている	YouTubeなどで動画をみながら自宅で体操などを行っている	一人で公園で体操をしたり、ウォーキングなどを行っている	友人や知人と一緒にウォーキングやスポーツをしている	栄養バランスのとれた食事をとっている
全体		35人	34.3%	25.7%	31.4%	31.4%	62.9%
性別	男性	13人	30.8%	15.4%	53.8%	46.2%	69.2%
	女性	22人	36.4%	31.8%	18.2%	22.7%	59.1%
年齢	20歳代	1人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	5人	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	40歳代	6人	16.7%	66.7%	16.7%	50.0%	33.3%
	50歳代	9人	55.6%	33.3%	22.2%	22.2%	66.7%
	60歳代	8人	37.5%	12.5%	62.5%	50.0%	50.0%
	70歳以上	6人	33.3%	0.0%	50.0%	33.3%	83.3%
区別	門司区	6人	16.7%	16.7%	50.0%	50.0%	33.3%
	小倉北区	10人	50.0%	30.0%	40.0%	40.0%	70.0%
	小倉南区	7人	14.3%	28.6%	28.6%	14.3%	100.0%
	若松区	2人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	2人	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%
	八幡西区	5人	20.0%	40.0%	20.0%	40.0%	60.0%
	戸畑区	3人	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%

(次ページへ続く)

		回答者数	口や歯の手入れをこまめに行っている	定期的に健康診断を受けている	その他
全体		35人	68.6%	77.1%	11.4%
性別	男性	13人	69.2%	92.3%	15.4%
	女性	22人	68.2%	68.2%	9.1%
	20歳代	1人	100.0%	100.0%	0.0%
	30歳代	5人	100.0%	80.0%	0.0%
	40歳代	6人	16.7%	50.0%	16.7%
	50歳代	9人	66.7%	88.9%	0.0%
	60歳代	8人	75.0%	75.0%	37.5%
	70歳以上	6人	83.3%	83.3%	0.0%
区別	門司区	6人	16.7%	66.7%	16.7%
	小倉北区	10人	90.0%	70.0%	10.0%
	小倉南区	7人	100.0%	100.0%	14.3%
	若松区	2人	50.0%	50.0%	50.0%
	八幡東区	2人	50.0%	100.0%	0.0%
	八幡西区	5人	40.0%	80.0%	0.0%
	戸畑区	3人	100.0%	66.7%	0.0%

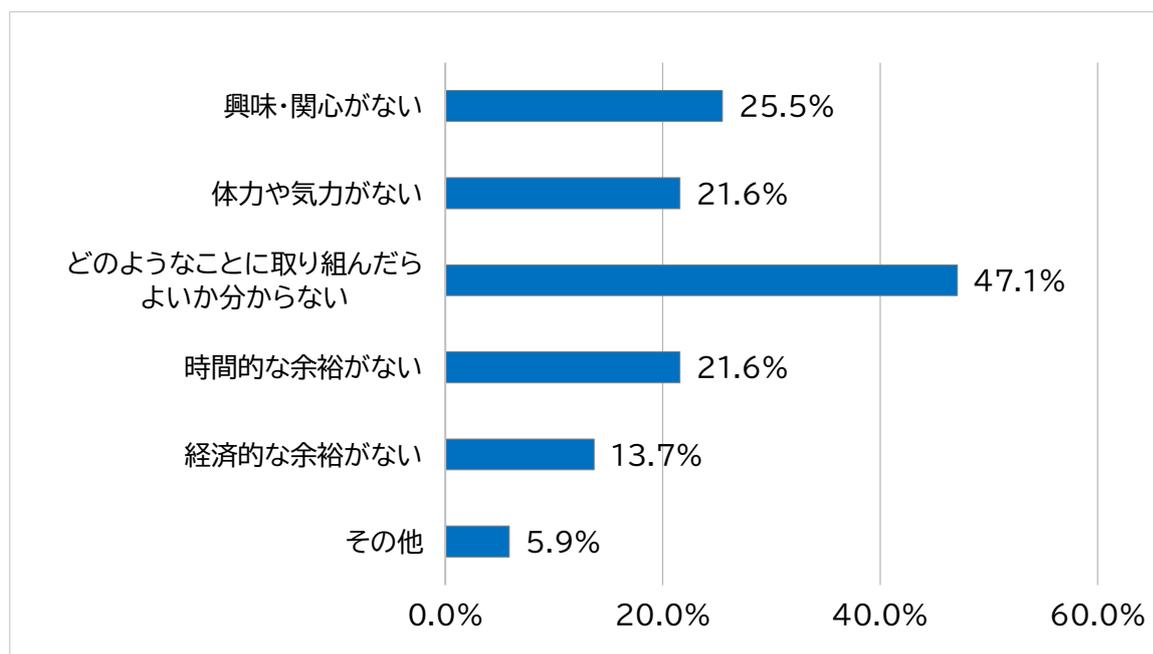
健康づくり(フレイル予防を含む)に取り組んでいる方の取り組み内容は、「定期的に健康診断を受けている」が77.1%で最も多く、次いで「口や歯の手入れをこまめに行っている」が68.6%、「栄養バランスのとれた食事をとっている」が62.9%でした。

前回と比較すると、「友人や知人と一緒にウォーキングやスポーツをしている」が31.4%で、前回の3.1%から大きく増加した結果となりました。

※その他の内容では「毎朝、体重と血圧を測る」「トラッカーを身につけて睡眠や活動をモニターしている」、「マラソン大会に参加する」といった回答がありました。

<問12で「いいえ」と回答された方にお尋ねします。>

問14 取り組んでいない理由は何ですか。(複数選択可)



		回答者数	興味・関心がない	体力や気力がない	どのようなことに取り組んだらよいか分からない	時間的な余裕がない	経済的な余裕がない	その他
全体		51人	25.5%	21.6%	47.1%	21.6%	13.7%	5.9%
性別	男性	25人	28.0%	20.0%	52.0%	28.0%	20.0%	0.0%
	女性	26人	23.1%	23.1%	42.3%	15.4%	7.7%	11.5%
年齢	20歳代	3人	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
	30歳代	8人	37.5%	12.5%	25.0%	25.0%	25.0%	12.5%
	40歳代	12人	16.7%	16.7%	58.3%	25.0%	16.7%	8.3%
	50歳代	11人	27.3%	18.2%	54.5%	9.1%	0.0%	0.0%
	60歳代	13人	30.8%	30.8%	46.2%	30.8%	7.7%	7.7%
	70歳以上	4人	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
区別	門司区	5人	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%
	小倉北区	8人	50.0%	0.0%	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%
	小倉南区	10人	20.0%	20.0%	50.0%	0.0%	10.0%	10.0%
	若松区	1人	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	八幡東区	10人	30.0%	10.0%	50.0%	20.0%	10.0%	10.0%
	八幡西区	13人	23.1%	46.2%	38.5%	30.8%	23.1%	7.7%
	戸畑区	4人	0.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%

(次ページへ続く)

健康づくり(フレイル予防を含む)に取り組んでいない方の、取り組んでいない理由は、「どのようなことに取り組んだらよいか分からない」が47.1%で最も多く、次いで「興味・関心がない」が25.5%となっています。

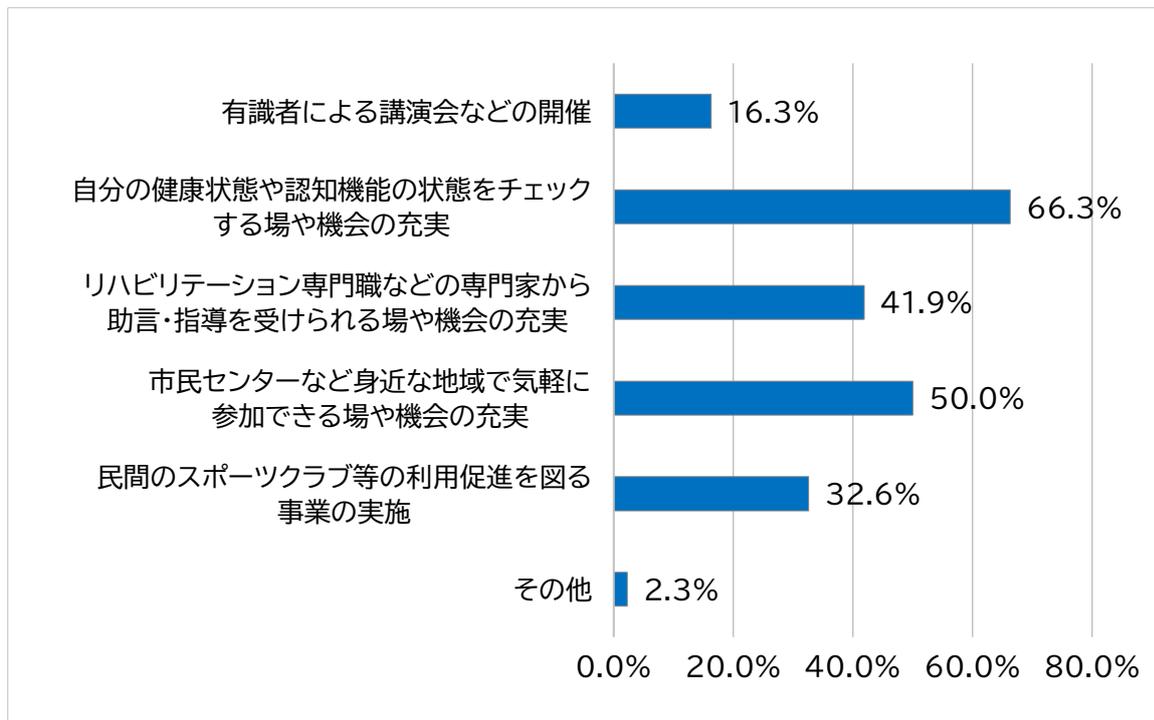
前回と比較すると、「どのようなことに取り組んだらよいか分からない」(前回38.1%)は増加し、「時間的な余裕がない」(前回47.6%)が減少しています。

年代別にみると、「体力や気力がない」という理由は、年齢が上がるとともに増加する傾向が見られます。

※その他の内容では「まだ必要を感じていない」、「自分自身の身体の問題がある」などの回答がありました。

(市が行う今後の健康づくり・介護予防(フレイル予防)事業について)

問15 市が行う健康づくり・介護予防(フレイル予防)事業に今後どのようなことを望みますか。(複数選択可)



	回答者数	有識者による講演会などの開催	自分の健康状態や認知機能の状態をチェックする場や機会の充実	リハビリテーション専門職などの専門家から助言・指導を受けられる場や機会の充実	市民センターなど身近な地域で気軽に参加できる場や機会の充実	民間のスポーツクラブ等の利用促進を図る事業の実施	その他	
全体	86人	16.3%	66.3%	41.9%	50.0%	32.6%	2.3%	
性別	男性	38人	18.4%	65.8%	47.4%	39.5%	28.9%	0.0%
	女性	48人	14.6%	66.7%	37.5%	58.3%	35.4%	4.2%
年齢	20歳代	4人	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%
	30歳代	13人	15.4%	53.8%	38.5%	38.5%	46.2%	0.0%
	40歳代	18人	11.1%	66.7%	44.4%	50.0%	33.3%	0.0%
	50歳代	20人	10.0%	90.0%	40.0%	65.0%	35.0%	5.0%
	60歳代	21人	19.0%	57.1%	47.6%	57.1%	33.3%	4.8%
	70歳以上	10人	30.0%	60.0%	50.0%	30.0%	10.0%	0.0%
区別	門司区	11人	18.2%	72.7%	45.5%	63.6%	36.4%	0.0%
	小倉北区	18人	16.7%	66.7%	50.0%	44.4%	38.9%	0.0%
	小倉南区	17人	11.8%	70.6%	35.3%	52.9%	23.5%	5.9%
	若松区	3人	0.0%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%
	八幡東区	12人	16.7%	91.7%	58.3%	41.7%	41.7%	0.0%
	八幡西区	18人	16.7%	50.0%	27.8%	55.6%	33.3%	0.0%
	戸畑区	7人	28.6%	57.1%	28.6%	42.9%	28.6%	0.0%

(次ページへ続く)

市が行う健康づくり・介護予防(フレイル予防)事業に望むことでは、「自分の健康状態や認知機能の状態をチェックする場や機会の充実」が66.3%で最も多く、次いで「市民センターなど身近な地域で気軽に参加できる場や機会の充実」が50.0%、「リハビリテーション専門職などの専門家から助言・指導を受けられる場や機会の充実」が41.9%となっています。

性別にみると、男性は女性に比べて「リハビリテーション専門職などの専門家から助言・指導を受けられる場や機会の充実」、女性は男性に比べて「市民センターなど身近な地域で気軽に参加できる場や機会の充実」を望む方が多くなっています。

年代別にみると、「民間のスポーツクラブ等の利用促進を図る事業の実施」は70歳以上の高年齢層に比べて30歳代で多くなっています。

※その他の内容では、「家族が認知症対象者について理解を深めるために家族と一緒に気軽に参加でき家族の理解が深まる機会がもっとあればいいと思う。」「毎日動くことを心がけさせる。(階段やゴミ捨て、早歩きなど)」の回答がありました。

## (認知症支援・介護予防に関する意見)

問16 その他、認知症支援・介護予防に関するご意見等がございましたらご記入ください。

(ご意見の中から一部抜粋して掲載しています)

- 市民センターで色々とフレイル予防に努力されていますが、各町内会長及び各委員が皆さんに直接お願いして参加の可否を聞いて、更なる地域活動を盛り上げたいと思う。市の方から声掛けがあると更にやり易い。孤独を感じている人も多いと思う。輪を広げる活動が重要！フレイル予防をすると医療費も下がってくると思われる。
- 介護を受けていない人に対して、介護予防のためのスポーツジムなどに行くための助成金や、定期的な健康診断の助成金を増やしてほしい。年寄りも、元気のための助成金があってもよいと思う。
- 認知症支援は絶対に当事者とその家族だけでは支えきれない部分が多いため、必ず行政のサービスに繋がるよう、誰でも相談口が分かるような対応を心がけてほしい。先日他県ではあるが、老々介護の末認知症の母を殺してしまった娘が裁判内で「誰に相談したらいいかわからなかった」と1人で介護を続けた末に悲しい事件が起きたことを知り、ただ窓口を設けておくだけではなく、積極的にそのような家庭に手を差し伸べることができる地域でありたいと思った。
- このアンケートで北九州市が認知症などに取り組んでいることを理解しました。これからは相談窓口等を積極的に活用させていただきます。ありがとうございます。
- おひとり様なので認知症支援・介護予防等に興味があります。気軽に参加でき相談できる機会をたくさん作って欲しいです。
- 全然知らない内容が多くあった。もっと分かりやすく市民に周知してほしい。知っているだけでも違うと思う。
- 認知症カフェがどこに、どのように参加できるのか、市政だより等でお知らせしてほしい。
- 身内に認知症の症状が出た時に地域包括センターにお世話になりました。40代くらいでは、その存在を知らない人も多いので、早いうちに認知できる形にしたら良いと思います。かかりつけのみでなく、専門医にも合わせてかかるような流れが作られると良いと思います。
- 政令都市の中でも高齢者率が高い北九州市。ぜひ認知症支援や介護予防の方で先進事例として進めて行ってほしい。
- 筋力低下を防ぐために運動に取り組んでいるが、結果的にフレイル予防になっている可能性がある。その点を踏まえて実感するのは、何より手軽に運動できる身近な

機会が充実していることである。行政的にもこのような機会の充実とその周知が求められよう。

- 認知症支援・介護予防について、誰に相談するのか明確に分からない。現在夫婦2人暮らしで、どちらかが認知症を発症したらどの機関を頼るのか？分からない。
- 配偶者が認知症になった場合、専門医に連れて行くことはできるが、日常生活のサポートで具体的に何をどのようにすればよいのか不安な面がある。
- 若年性認知症の方への社会基盤が乏しいと感じます。若年の当事者であれば、介護するのはその配偶者になりますし、まだどちらもお仕事している年齢でもあります。そして、お子さんがいれば、そのケアも必要となりますが、症例数が多くないからか、現実的に利用できる社会資源をもう少し増やして欲しいと思います。そして、市民が情報収集しやすいように、告知して情報を広めてもらいたいです。
- 北九州市見守りシールをどうにかして、もっと広めることができればいいなと思いました。あのシールだけでは、あのシールを貼っている方を見つけてもピンと来ないなと思ってしまいました。ヘルプマークのようにもっともっと広まったら、手を差し伸べやすいなと思いました。
- 身内で認知症になり、家族の顔がわからなくなる程悪化した方がいます。一緒に暮らしている方は、どう接してよいか分からなかったようで、手遅れの感があります。そのような状況に陥った家庭は、少しでもいつもと違う行動があった時は、できるだけ早期に一緒に住んでいる人や身内の方が、率先して専門医療機関に連れて行き、診察を受けさせるような案内を行政が積極的に行ってくれるとありがたいと思っています。
- みなさんが幸せに生きていけるように、認知症の方も周りの人も笑える毎日であるために全国の取り組みを参考にしたり、大学(北九州市にはたくさんいい大学や学生さんもいます)研究や医療など広域に連携したりして、年齢を重ねても充実した毎日が過ごせるような取り組みがあると安心します。
- 私は、市民センターでよく講座等に参加しています。色々な情報を、市政だよりにたくさん掲載して欲しいです。いつも思う事ですが、市民センターが家から近い方はいいですが、離れている方は大変だと思います。もう少し場所があるといいなと思っています。

## IV 全体考察

北九州市では、およそ4万2千人の高齢者が認知症と推計されており、今後も増加することが見込まれています。また、高齢者のみの世帯が多く、認知症に関する取り組みは喫緊の課題です。

北九州市では、国が作成した「認知症推進5か年計画(オレンジプラン)」及び「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」で示された考え方を踏まえ、「北九州市認知症施策推進計画(通称:北九州市オレンジプラン)」を平成27(2015)年3月に策定しました。この計画は現在、「北九州市しあわせ長寿プラン」に包含し、これに沿って総合的な認知症施策を推進しています。

また、更なる高齢化の進展に伴い、今後も認知症高齢者数の増加が見込まれることから、国は令和5(2023)年6月に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法(認知症基本法)」を公布、令和6(2024)年1月に施行し、認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、国が新たに認知症施策推進の基本計画を定め、総合的かつ計画的に推進することとしています。

本市においては、このような国の動きを注視しながら、認知症基本法で掲げる「認知症の人を含めた国民一人一人が共生する活力ある社会の実現」に向け、認知症施策の充実に取り組みます。

### 1 調査の目的

今回のアンケートは、今後の本市の認知症支援・介護予防に関連する事業をさらに推進していくために実施したものです。

### 2 調査結果

#### 【北九州市の高齢化について】

政令指定都市の中で、北九州市が最も高齢化率が高いことを「知っている」は81.4%です。前回の令和6年度は「知っている」が85.1%で、ほぼ同程度の認知度となっています。

#### 【認知症について】

軽度認知障害(MCI)は、認知症と健常な状態の「中間のような状態」のことですが、このことについて、「内容も言葉も知っている」が22.1%、「内容は知らないが、言葉は知っている」が38.4%で、軽度認知障害(MCI)という言葉を知っている方が6割に達しており、日常生活の中で見聞きする機会が多いことが分かります。

市が行っている認知症事業のうち、「知っている」という回答は「認知症サポーター養成講座」、「認知症カフェ」が同率で25.6%、「高齢者見守りサポーター派遣事業」が18.6%となっています。

「認知症カフェ」を知っている方のうち、実際に利用したことがあるかどうかを尋ねたところ、「利用したことがある」(9.1%)は1割に満たない状況です。

市が行っている交流会のうち、「知っている」という回答は、「認知症・若年性認知症

介護家族交流会」が20.9%、「認知症ご本人交流会」が11.6%となっており、いずれの交流会も認知度が低い状況です。

市が行っている認知症高齢者等の安全確保事業のうち、「知っている」という回答は、「認知症行方不明者等SOSネットワークシステム」が16.3%、「北九州市見守りシール交付事業」が14.0%、「認知症高齢者等位置探索サービス事業」が10.5%となっており、前回と比べても大きな違いはありません。これらの事業は、認知症の方ご本人や実際に認知症の方がいるご家族などへの支援事業であることから、他の事業に比べて認知度が低くなっていると推察されます。

また、認知症に関する相談窓口の認知度では、「かかりつけ医」が68.6%、「ものわすれ外来」が67.4%と僅差で並び、今回は「かかりつけ医」(前回55.4%)の認知度が高くなっていることが分かります。「どこに相談してよいかわからない」は16.3%ですが、男性で「どこに相談してよいかわからない」は23.7%と2割を超えており、男性への周知啓発の取り組みが必要と考えられます。

高齢者の増加とともに、認知症高齢者も増えてくることが想定されるなかで、認知症の方が住み慣れた地域で安心して生活していくためには、家族だけではなく、地域全体で認知症の方を見守り、支えていく体制を構築していくことが重要であり、事業の周知啓発に、今後より一層取り組む必要があると考えられます。

#### 【健康づくりや介護予防(フレイル予防)について】

フレイルという内容も言葉も理解している方は30.2%で、「内容は知らないが、言葉は知っている」が26.7%、「内容も言葉も知らない」が43.0%となりました。前回の令和6年度と比較すると、「内容は知らないが、言葉は知っている」(前回20.3%)、が増えており、日常の生活の中で見聞きする機会は増えていることが分かります。今後は、フレイル予防の具体的な内容を周知していくことが必要と考えられます。

健康づくりや介護予防(フレイル予防)に関する情報を何から得ているか尋ねたところ、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が52.3%、「インターネット(Web記事やSNSなど)」が41.9%でした。年齢別にみると、「インターネット(Web記事やSNSなど)」は若い年代よりも50歳代、60歳代の方で、情報入手経路としての優位度が高くなっていることが分かります。今後は、若い年代にも関心を持ってもらうようなインターネット(Web記事やSNSなど)等による周知方法を検討する必要があると考えられます。

健康づくりや介護予防(フレイル予防)に取り組んでいるかについては、「はい」が40.7%で、前回の令和6年度の43.2%とほぼ同程度となりました。具体的な取り組み内容では、「定期的に健康診断を受けている」(77.1%)が前回同様最も多く、「口や歯の手入れをこまめに行っている」、「栄養バランスのとれた食事をとっている」が60%を超えています。前回の令和6年度と比較すると、「友人や知人と一緒にウォーキングやスポーツをしている」が31.4%で、前回(3.1%)から大きく増加しています。

また、「特に取り組んでいない」理由では、「どのようなことに取り組んだらよいか分からない」が47.1%で最も多く、次いで「興味・関心がない」が25.5%となっています。前回の令和6年度と比較すると、最も多かった「時間的な余裕がない」(前回47.6%)は21.6%に減少し、「どのようなことに取り組んだらよいか分からない」が増加した結果となりました。健康づくりや介護予防(フレイル予防)に役立つ運動の方法など、具体的な情報をより多く発信し、興味や関心を持っていただくことが必要と考えら

れます。

市が行う健康づくり・介護予防(フレイル予防)事業に望むことでは、「自分の健康状態や認知機能の状態をチェックする場や機会の充実」が66.3%で最も多く、「市民センターなど身近な地域で気軽に参加できる場や機会の充実」が50.0%で、前回の令和6年度とほぼ同じ結果となっています。

引き続き、身近な場所で、自身の健康や認知機能をチェックできるような住民参加型のイベントに注力していく必要があります。

## 【まとめ】

今回のアンケートの結果から、本市における高齢化の現状について非常に認知度が高いことが分かりました。また、軽度認知障害(MCI)という言葉を知っている方が6割に達しており、認知機能の衰えに関する情報に触れる機会が多いことが分かります。市が行っている認知症事業への認知度はまだ低い状況にあり、今後は認知度とともに事業内容への理解度も深めていく必要があります。

健康づくりや介護予防(フレイル予防)に関する情報入手先として、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌などのマス・メディアや、インターネットを用いたソーシャルメディアと答えた方が多いことから、これらの媒体を用いた広報の重要性は高まっており、特に50歳代、60歳代ではインターネットを用いたソーシャルメディアの優位性が高くなっています。今後は、若い年代にも関心を持ってもらうような情報発信の方法を検討する必要があります。

今回のアンケートの結果については、今後の本市の認知症支援・介護予防施策の立案のための基礎資料として活用させていただき、支えあいやつながりでも各自らしく暮らしていける「認知症にやさしいまち」を目指して、認知症支援・介護予防の事業を推進してまいります。

【市政モニターに関すること】

総務市民局広聴課（TEL：093-582-2527）

【アンケートに関すること】

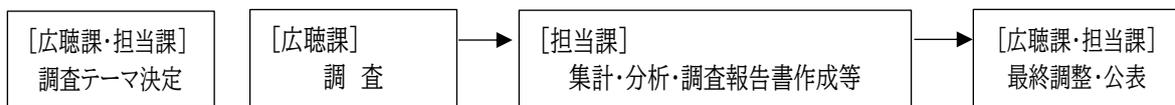
保健福祉局認知症支援・介護予防課（TEL：093-582-2063）

## 市政モニター制度について

### 1. 市政モニター制度の概要

市の様々な施策を進めるうえで、満足度や実感などの市民の声を参考とするため、毎年、公募により18歳以上の市民の方(定員150人以内)を対象に、市政モニターとして様々な分野のアンケートに協力していただいています。

### 2. 市政モニター調査の作業工程について



### 3. 令和7年度 市政モニターアンケート調査 実施予定及び公表予定

回	実施時期	件名	担当課	回収率	公表予定
1	6月2日～6月13日	地球温暖化対策に関する意識調査	環境局グリーン成長推進課	94.1%	7月
1	6月2日～6月13日	北九州市の観光振興について	都市ブランド創造局インバウンド課	93.1%	7月
2	6月16日～6月27日	北九州市の財政状況に関する意識調査	財政・変革局財政課	89.2%	9月
3	7月1日～7月14日	防災ガイドブック・ハザードマップについて	危機管理室危機管理課	87.3%	9月
4	7月15日～7月28日	生涯学習に関する意識調査	総務市民局生涯学習課	93.1%	10月
5	8月5日～8月18日	モラル・マナーアップについて	総務市民局安全・安心推進課	91.2%	10月
6	8月21日～9月2日	北九州市の海辺に関する意識調査	港湾空港局計画課	87.3%	11月
7	9月11日～9月24日	暴力追放運動について	総務市民局安全・安心推進課	89.2%	12月
8	10月1日～10月14日	障害福祉施策について	保健福祉局障害福祉企画課	86.3%	12月
9	11月4日～11月17日	北九州市の生物多様性について	環境局ネイチャーポイント推進課	88.2%	1月
10	12月1日～12月12日	認知症支援・介護予防に関する意識調査	保健福祉局認知症支援・介護予防課	84.3%	2月
11	12月15日～12月26日	北九州市内の身近な公園に関するアンケート	都市戦略局緑政課	—	3月

※上記については、変更の可能性があります。